

事業概要説明シート

事務事業番号 30963

事務事業名	保育所(園)ふれあい体験事業		
事業開始年度	平成20年4月～	担当部署	子ども青少年部 子育て支援室 入所・地域支援担当

根拠法令	枚方市安心子育て応援事業補助金交付要綱
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:) <input type="checkbox"/> その他()
目的 (何のために)	少子化や核家族化の進行などにより、子育てに伴う負担感・不安感が増大しているため、地域における相談、支援体制の充実が求められている。5～8か月児と1歳児及びその保護者を対象に、親子で保育所に足を運んでもらうことで、保育所を在宅子育て支援のための身近な場所と感じてもらい、親の孤立感の解消や虐待の未然防止を目指す。

対象 (誰・何を対象に)	市内在住の生後5～8か月と、1歳のお誕生日を迎える乳児
-----------------	-----------------------------

事業内容	<p>地域や保育所(園)の持つ力を活用した子育て支援の取り組みとして、生後5～8か月に1回と、1歳のお誕生日には「枚方版ブックスタート事業」と合わせて親子で近くの保育所(園)を訪問してもらい「保育所(園)ふれあい体験」を実施している。</p> <p>住所地が近く月齢も同じくらいの子どもが集まる機会になることや、保育所入所体験、入所児童・他の親子・地域の人々との交流、保育士による育児のアドバイス・育児相談などを通じて、親子の育ちを支援するもので、市内全ての認可保育所(55か所)で実施している。</p> <p>平成23年度については、前年度に比べて参加者数が減少したが、これは冬季のインフルエンザや流行性胃腸炎等の流行により、1～3月の参加者が減少したためである。</p>
------	---

類似事業	類似事業を実施している保育所や自治体は多い。
------	------------------------

事業の必要性	<p>生後6～8か月はお座りやハイハイをしたり、人見知りが始まるなど、外との関わりが出てくる大切な時期であり、親にとっても、子どもとの関わり方や離乳食などに不安を感じる、いわゆる「8か月不安」と呼ばれる時期である。また、1歳の誕生日は生まれて初めての大切な誕生日であり、子どもの活動が活発になる頃であることから、親がイライラしやすく親に対する支援が必要となる時期である。</p> <p>子どもの成長に伴って、親子双方にとって節目ともいえる大切な時期に、子育て家庭への支援の一環として、月齢の近い子のいる親子との交流や、育児について相談できる身近な場として、近隣の保育所(園)へ出向く機会を創出する事業を実施することが必要である。</p>
--------	--

コ ス ト		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費
正職員	0.2人	1,623千円	0.2人	1,214千円	0.2人	1,200千円	
再任用職員	人	0千円	人	0千円	人	0千円	
非常勤職員等	人	千円	人	千円	人	千円	
人件費計(A)		1,623千円	1,214千円	1,200千円			
直接経費(B)		456千円	451千円	560千円			
総事業費(A+B)		2,079千円	1,665千円	1,760千円			

財源内訳		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
国庫支出金		千円	千円	千円	千円		
府支出金	256千円	260千円	560千円				
受益者負担(使用料等)		千円	千円	千円			
その他		千円	千円	千円			
一般財源	1,823千円	1,405千円	1,200千円				

内 容	金 額
平成23年度事業費の主な内訳(人件費除く)	
保育所体験事業経費(消耗品費 340、印刷製本費44、通信運搬費180)	564千円
	千円
	千円

事業概要説明シート

事務事業番号 30963

事務事業名	保育所(園)ふれあい体験事業		
事業開始年度	平成20年4月～	担当部署	子ども青少年部 子育て支援室 入所・地域支援担当

活動実績	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
	① 市内55カ所の保育所(園)で実施、参加者数	人	2,861	2,680	2,800
②					
③					
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 事業費/参加者数	円	0.637	0.621	0.629
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	<p>生後4か月までの乳児のいる全家庭を訪問する乳児家庭全戸訪問事業(「こんにちは赤ちゃん事業」)、4か月健診、1歳児を対象として本事業の中で実施する「枚方版ブックスタート事業」、1歳6か月健診等と合わせて、子どもが著しく発達する1歳6か月までの時期に、子どもの成長段階に応じて連続性をもって支援を行うため、育児相談や子育て支援に係る情報提供を行う機会を設定することで、親の孤立感や育児不安の軽減を図り、子どもの健やかな成長と虐待の未然防止につなげる。</p>				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	<p>国の「保育所体験特別事業」を活用し、同様の事業を実施している保育所は、23年度実績で全国で1,096カ所ある。「大阪府地域福祉・子育て支援交付金」を活用して類似事業を実施している府内自治体も多い。</p>				
特記事項	<p>①国の「保育所体験特別事業」については、本年6月21日に行われた行政事業レビュー公開プロセスにおいて、「事業目的が不明確」、「実施箇所が増えていない」、「他事業との併合・代替が可能」等の理由により、外部有識者から「廃止」の方向が出された。</p> <p>②事業実施2年目の平成22年度に2か月にわたって参加者対象のアンケートを行った結果、参加の動機について1歳児は「絵本がもらえるから」が最も多く、0歳児・1歳児共通では「同年齢の子と遊べるから」「楽しそうだから」「親同士のつながりができれば」というものが多かった。また、参加した結果、100%近くが「とてもよかった」「よかった」と回答しており、「月齢の近い子とふれあう機会となった」「保育士のアドバイスが参考になった」「入園する保育園の様子がわかり安心した」「多くのお母さんと話げできた」「今後も定期的に保育園に行きたい」などの声があり、参加者の満足度は高い。</p>				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	<p>引き続き、親の孤立感の解消や虐待の未然防止を目指すとともに、参加者の増加に向けて事業の周知を図る。</p>			
一次評価結果	<p>・事業自体の有効性の検証が必要では</p>				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	<p>個別に招待状を送付している1歳のお誕生月に比べ、5～8か月児の参加者が少ないことから、生後4か月児までを対象とした乳児家庭全戸訪問事業の際の周知とともに、さらに効果的なPRを行い、参加者の増加を図る。また、本事業への参加をきっかけに、保育所(園)の地域開放や園庭開放、また市内12カ所(24年度については、1カ所が休所のため11カ所での運営)の地域子育て支援拠点を活用した継続的な子育て支援につなげることを目指す。</p>			